

日本初のロータリーコンプレッサーを搭載したウインドクーラーおよびビル用マルチエアコン

管理者—ダイキン工業

1952年の発売当初は、機器効率や騒音などの点で課題があったが、その後の企業のたゆまぬ努力によって克服し、今日の家庭用エアコンの歴史的第一歩を築いた。今回の申請品は58年に発売された、日本で初めてロータリーコンプレッサーを搭載した製品の1号機である。

従来のレシプロ式からロータリー式に切り替えることで、音や振動が少なくなり、小型化が進み、外観も改善され、家庭用空調機の先駆的的一步となった製品である。

家庭用のマルチ技術は、オイルショックを契機にして、中小ビルの空調の省エネルギーをターゲットとしたビル用マルチエアコンシステムに継承された。その結果、82年に、在来システムの空気や水の搬送動力の低減を図った、新たなビル空調システム「ビルマル」の発売に結実した。今回のもう1つの申請品は84年に納入された、ビルマルの現物である。

この2つの製品は、今日の家庭用、ビル用空調に革新的な進化をもたらし、近年の空調システムの省エネルギー化に大きく貢献してきたものである。